

加藤恭子ゼミナール 登竜門企画 二十歳の頃

なりたい自分になるために～必要な3つのこと～

D班：阿部 大木 柴田

<はじめに>

今回私たちは自分の就きたい職業や夢に向かって努力し叶えた方に興味があり、夢を叶えるために二十歳の頃どうゆう生活をしていたのか、またその仕事に就いてからの体験を伺いたいと思いました。そこで、阿部の古くからの知人の、パイロットを夢として実現させた小川圭介さんにインタビューさせていただきました。

また小川さんの二十歳の頃や夢を叶え社会人になってからの話を聞き、自分たちがどのような二十歳の頃を送れば良いか、また将来のキャリア（なりたい自分）になるためにはどうしたら良いか考えました。

パイロットという職業にこだわったわけではなく、責任感ある仕事なのでそこにも興味を持ちました。

<プロフィール>

小川圭介さん

- ・1964 年生まれ
- ・1983 年 熊本県立済々黌高等学校卒業
- ・1989 年 武蔵工業大学(現 東京都市大学)卒業
- ・1989 年 全日本空輸株式会社入社
- ・1993 年 ボーイング 767 副操縦士昇格
- ・2002 年 ボーイング 767 機長昇格

<インタビュー内容>

わたしたちは小川さんがパイロットになる前となった後に分けて話をききました。

～パイロットになる前～

パイロットになろうと思ったきっかけは14歳の頃に地元の空港から飛び立ったジャンボジェットを見て驚き、その飛行機を操縦している人がとても小さく見えたことに衝撃を受けたことだそうです。このことからパイロットを目指すことを決めて、そのために二十歳の頃には情報収集（パイロットの種類やどのようにしてパイロットになるのか等）やパイロットとして必要な英語力を身につけるための勉強をなさっていたそうです。

また就職活動においてもやはり航空関係の企業に目を向けていたそうですが、その他には自動車の会社なども受け、内定をもらったそうですが、一番の理想であったANAへの入社を決め、パイロットになるための訓練が始まっていったそうです。

～パイロットになった後～

厳しい訓練を経てパイロットになった後の体験をききました。

パイロットとして仕事をするようになってから、人との繋がりが大切であることを感じるものがたくさんあるとおっしゃっていました。

例えば、機長や副操縦士の技術だけではフライトはうまくいかない。搭乗しているスタッフ全員がチームワークで協力しあうことでトラブルも乗り越えられるし、お客様を安全に目的地まで届けることができる、とおっしゃいました。協力しあうためには周りを見てその場の状況や人にあわせてアクションを起こす**協調性**は欠かせないとおっしゃっていました。

また、誰かと一緒に仕事をする時には、相手のこと、さらには自分のことを認識しなければなりません。「認識する」ことはとても大切だそうで、**自己認識**は自分の良いところと悪いところを知ることであり、視野や選択肢を広げることを可能にします。その自己認識次第で、自分ができることとできないことを明確にすることができ、協調性の発揮の仕方や他のスタッフへの指導の方法も変わってくるそうです。また、パイロットでもその他の職業でも、仕事のできる人とは自分をわかっている人だとおっしゃっていました。

皆が協調性や自己認識を意識しながら仕事をしていけば、その場の環境や作業効率も良くなり、そして結局それが自分のためにもなるというお話でした。

二十歳の頃の経験などで、今の自分に影響を与えていることはあるか尋ねたところ、いつも二十歳の頃（パイロットになりたくて一生懸命勉強していた初心）を忘れないように心掛けているとおっしゃっていました。今自分がパイロットであることを当たり前だと思ってしまうのは、井の中の蛙になってしまうから、二十歳の頃の気持ちをいつも思い出しながら仕事をなさっているそうです。

〈考察〉

小川さんの話をきき、なりたい自分になるために必要なことは何か考えた結果、特に大切にしていきたいことを以下の3つに絞りました。

私たちのグループの中には将来やりたいことがやる人、そうでない人がいます。しかしどちらの立場であってもこの3つのことを意識していくことでなりたい自分に近づけると思いました。

① 協調性

仕事をする上で大切なのはチームワークだと思っていても、それぞれの人に協調性がなければ良いチームワークは築けないと思います。しかし、協調性に欠ける人がいたとしても、互いに譲り合ったり助けあったりするうちにその人のなかに協調性といわれるものが生ま

れてくるのではないのでしょうか。それぞれが協調性を意識し、良いチームワークを築くことができれば仕事で厳しいことや辛いことがあっても乗り越えられるし、大きな達成感も得られると思います。

② 向上心

インタビューの中で小川さんは「これでいいと思ったら進歩はない」という言葉を残してくださいました。現状に満足するのではなく、どんな小さなことでもいいから目標を見つけて、そこに向かって行動する向上心を持つことで成長し、なりたい自分に近づけるのではないかと考えました。また、そのように向上心を持って取り組む姿は周りの人々にも影響を与え、頼られる存在になれるのだと思います。

③ 自己認識

自分を知ることによって選択肢を広げるという話がありました。この話をきいて、仕事をするうえで自分を理解することの大切さを知りました。自分がわかっていないと、なりたい自分になるために何ができるかわかりません。自分を理解することで自身の成長へのヒントが見えてくると考えました。

<さいごに>

小川さんの話をきいて、私たちはそれぞれ「なりたい自分」とその実現のためにこれからの大学生活をどう過ごしていくべきか考えました。

阿部：小川さんの話をきき、自分のことばかりではなく、周りのことも考えて行動できる人間になりたいと思いました。なぜなら仕事をする上でのチームワークや協調性がいかに大切か分かったからです。これからのゼミ生活の中でコミュニケーション能力や協調性を身につけられるよう、先輩の良いところを吸収し、アドバイスをもらおうといったことから始めていきたいと思いました。

また、興味のアンテナをもって将来やりたいことを見つけようと思いました。夢を見つけることで自分が成長しやすい環境を作れると思ったからです。その為に、二十歳に頃や二十歳になる前にたくさんの人に話をきいたり企業見学にも行ってみたいと自分自身で興味のアンテナを立てていける人間になりたいです。

大木：私は小川さんから小さなことでもいいから目標を見つけて、というアドバイスをもらい、今の自分に何が必要か考えてみた結果、英語力を高める！という目標を持って大学生活を送ろうと考えました。英語を勉強できる国際コースという環境を最大限に活かして、英語のスキルアップを目指していきたいです。

また私は将来、二十歳の頃の自分に自信を持てる大人になりたいと思っているので、勉強だけでなく、自信を持って頑張ったといえることが一つでも多くなるように、熱中できること見つけて大学生活を無駄にすることのないように過ごしていきたいです。

この二十歳のころという企画を通じて班のメンバーと仲良くなれたし、準備期間とても楽しめました！

柴田：僕はなりたい自分になるために大切なことは、“向上心”だと思いました。なぜ向上心が大切だと思ったかという、私は小川さんのように幼き頃から働きたい場所、職種があります。

小川さんの話を聞いて、思った事はただ夢として思っているだけではなく、向上心を持って行動に移していたことに感銘を受けました。自分の夢に向かって何かアクションを起こすことが大事だと思います。実際この企画が終わってから何かアクションをしようとも考えています。自分も小川さんを手本に実りある二十歳の頃や大学生活を過ごしていきたいと思います。

また、この企画を通して学んだチームワークを今後のゼミ活動に活かしていきたいです。



インタビューに協力してくださった小川圭介さんに感謝いたします。ありがとうございました！！